



文化の花が開花し始めています

人間は、食べる・眠るなど生物としての根本的な活動のほかに、熱心に遊びます。その点が他の動物と違う「人間らしさ」です。ここでの「遊び」とは、芸術やスポーツ、祭りといったものです。確かに芸術やスポーツなどの文化は、人々の心を揺さぶり、感動を与え、私たちの生活を豊かに彩ってくれます。和歌は平安貴族の優雅な遊びで、俳句は鎌倉時代から江戸時代中期に庶民の間で大流行し、当時の人々は俳句を詠むことで日々の暮らしを再発見していました。

一方、現在の私たちは、昔の人々のように和歌や俳句を日常生活の中でたしなむ機会は多くはありませんが、学校では子どもたちが国語の授業や大きな行事（修学旅行等）の後に創作しています。今年度は国語科の教諭が、生徒作品を様々なコンテストや長崎新聞に投稿してくださり、入賞することが多くなっています。下記のように新聞への掲載も3回目となり、生徒たちの文化の花が開花し始めています。

さて、先週11月10日（金）に宮崎県で開催された九州中学校国語教育研究大会に私と国語科の教諭が参加をし、その記念講演の講師は、俳人の夏井いつき先生でした。講演の中で、俳句を作る楽しさや学校における俳句の指導について、貴重なお話をうかがうことができました。

来週実施する俳句教室に、夏井先生のご子息である家藤正人さんを講師にお招きすることは以前お伝えしましたが、今回の講演をきいたことで、ますます俳句教室が楽しみになりました。めったにないこのチャンスに、生徒には自分の力をますます伸ばしてほしいと願います。

深堀中生の活躍

★長崎新聞ジュニア歌壇 〈11月12日(日) 掲載〉

佳作

2年生

【終わりかけ夏の暑さに毛布どけ背中蹴られて四時頃起床】

2年生

【絶叫フライングダイナソーいざまいるスピードすごく背筋が凍る】

2年生

【バス移動寝ては遊んで騒がしいみんなニコニコひまわり笑顔】

2年生

【まちくらベコンビニにかわらびっくりだ長崎にはない京都のまち】